

# 京都市立芸術大学及び京都市立銅駝美術工芸高等学校移転整備 実施設計

1	付近見取図, 専攻配置概要	p.1
2	デザインイメージ	p.2-7
3	平面計画	p.8-13
4	立面計画	p.14
5	環境への配慮, 安心・安全への配慮	p.15

# 1 付近見取図・専攻配置概要

## 付近見取図



地区 (名称)	京都駅側の地区 (C地区)	中間の地区 (B地区)	鴨川沿いの地区 (A地区)	
種別	京都芸大	京都芸大	京都芸大	銅駝美工
敷地面積(m <sup>2</sup> )	約15,900	約6,000	約12,700	
延床面積(m <sup>2</sup> )	約46,500	約9,500	約8,900	約9,300
	合計：約74,200			
階数	地上7階 地下1階	地上5階	地上3階	地上4階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 (基礎免震)	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造

※ 延床面積には、テラスやピロティ等の屋外面積が含まれる。

## 専攻配置概要



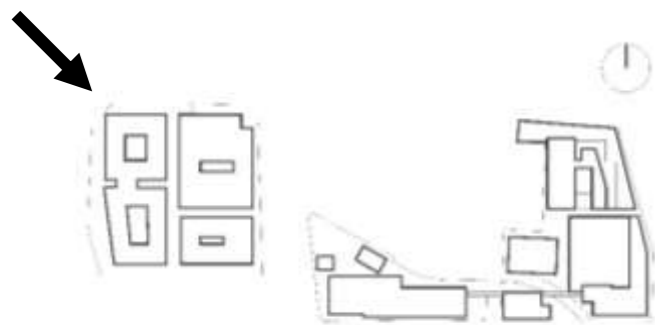
※ A地区南東からのイメージ

## 2 デザインイメージ



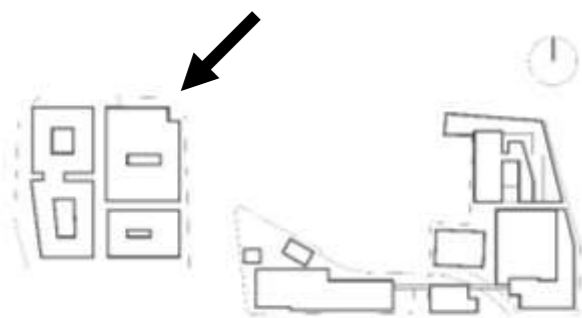
高倉塩小路より

塩小路通から音楽ホール兼講堂のある3階へ、スムーズにアクセスできる大階段を設けて、キャンパス内に人の流れをつくります。





河原町塩小路より



ギャラリー@KCUA（アクア）や芸術資料館を1階に配置し、塩小路通沿いにおいて大学の芸術活動を発信すると共に、京都駅から東山へ至る動線の魅力向上を図ります。



鴨川より



鴨川に沿って流れるように屋根をかけ、銅駝美工と京都芸大を一体感のあるデザインとします。また、キャンパスと鴨川がつながるようにデザインし、自然に親しみながら創作活動ができるようにします。



高瀬川をのぞむ



高瀬川沿いは、屋外スペースや高瀬川も活用しながら、柳原銀行記念資料館や地域と連携した創作活動が行われるような親水空間をつくっていきます。  
 また、制作中の作品や創作活動が外から見えるような、開放的なデザインとします。



C地区3階テラスより



キャンパスを南北に貫く大通り（芸大通）や、中高層階の大きなテラスが芸術活動の場になるとともに、芸大を訪れる人々と芸大生の交流の場となり、都市の中の大学の新しいあり方を表現していきます。



塩小路橋より（銅駝美工をのぞむ）



全国屈指の美術専門高校である「銅駝美術工芸高校」を移転します。鴨川に面し、京都の四季折々の風情を感じることができる恵まれた環境のもと、生徒たちは日々、勉学や創作活動に励みます。

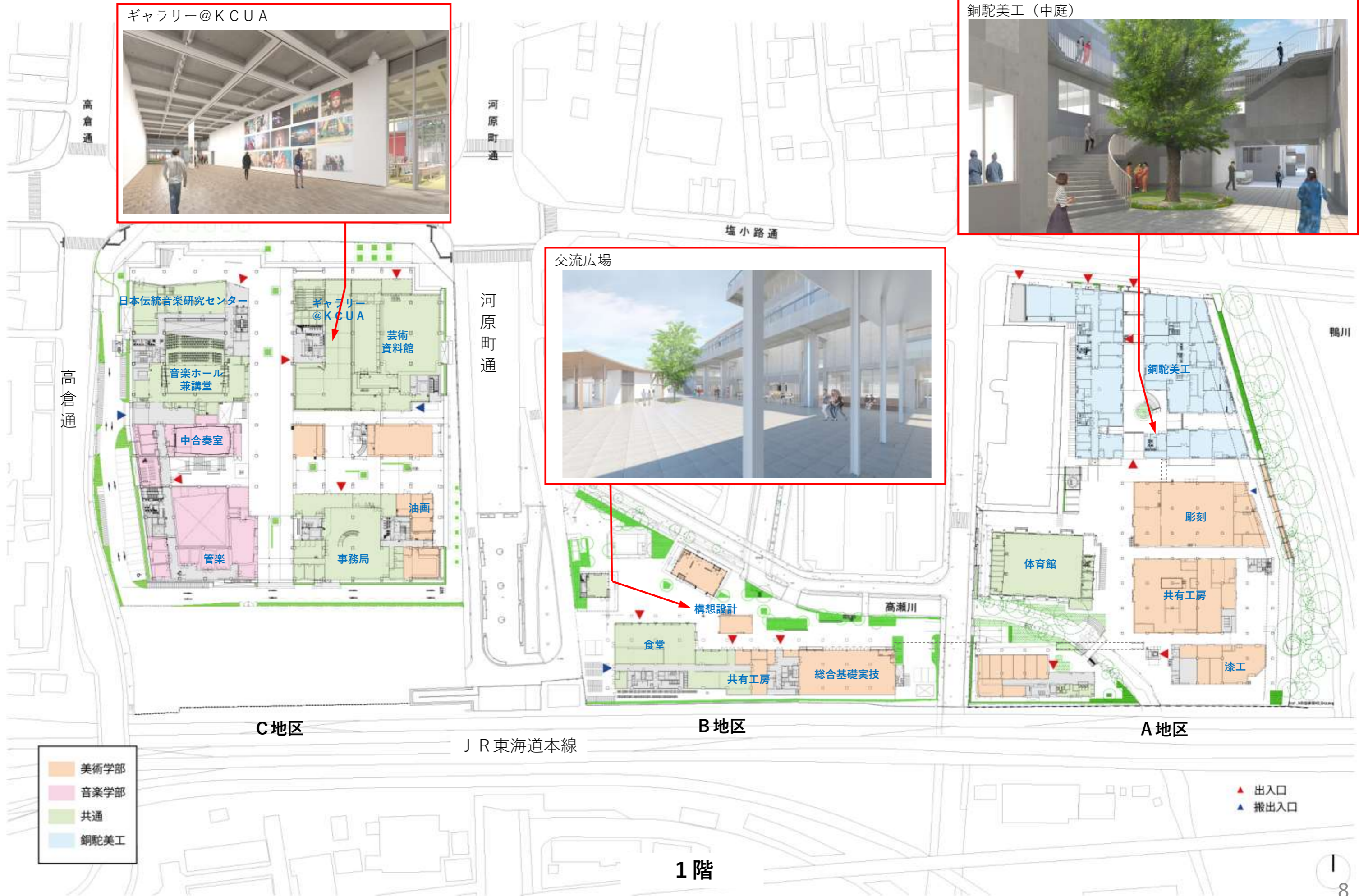


### 3 平面計画

ギャラリー@KCUA



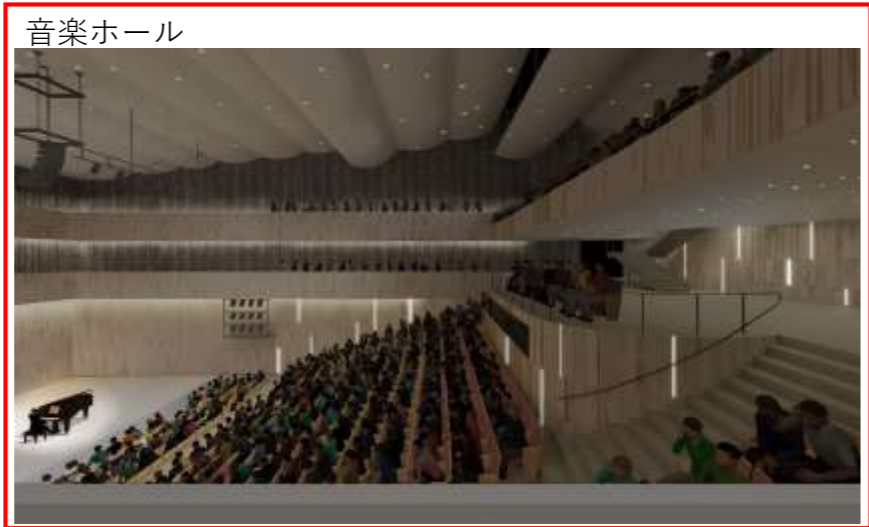
銅駝美工 (中庭)



交流広場



1階



C地区



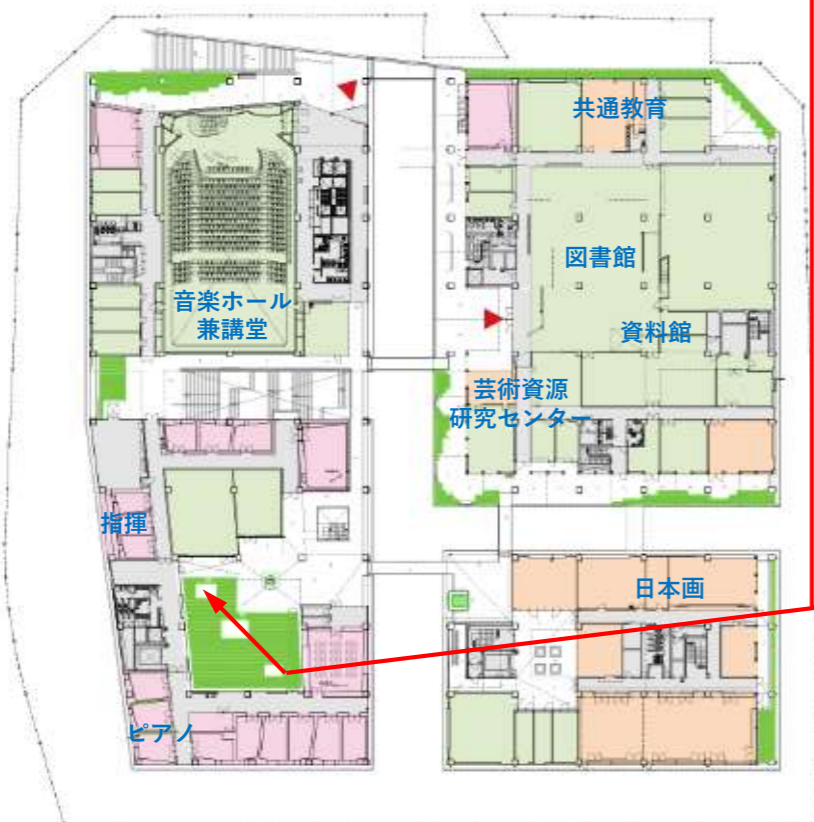
B地区

A地区

▲ 出入口

2階

中庭（吹抜け）



C地区



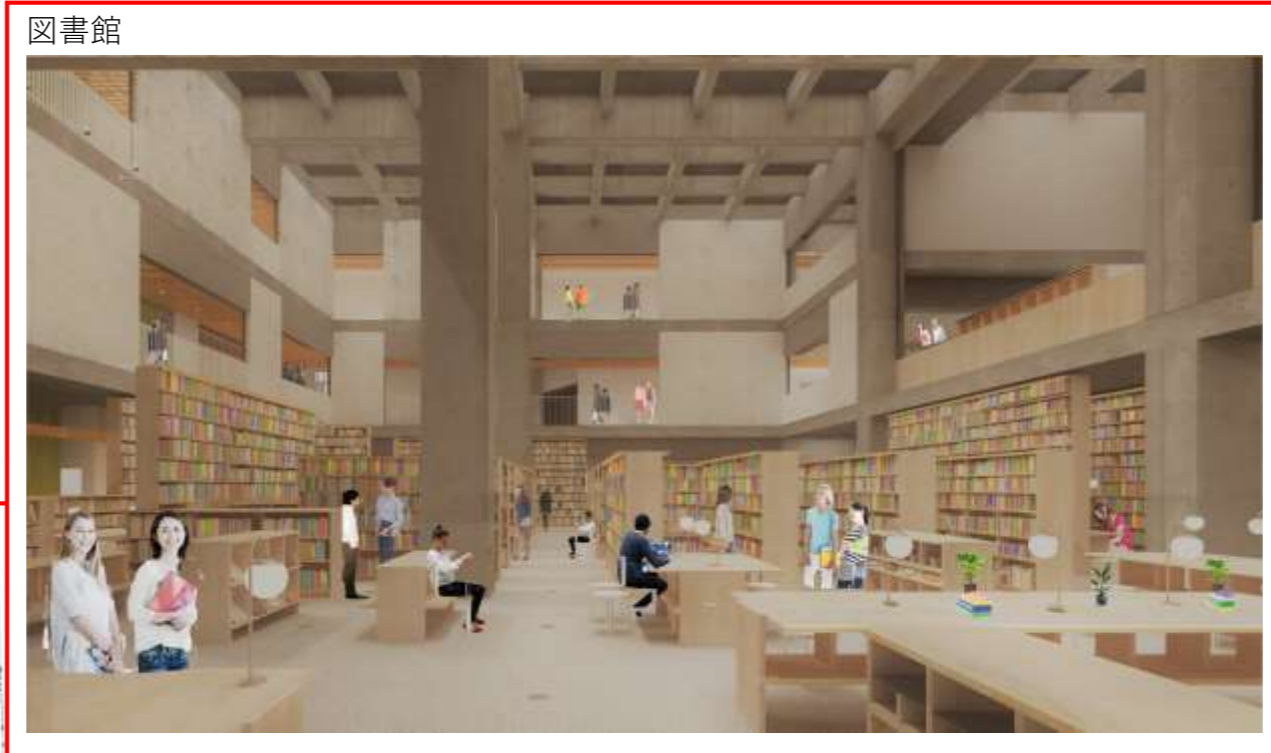
B地区

A地区

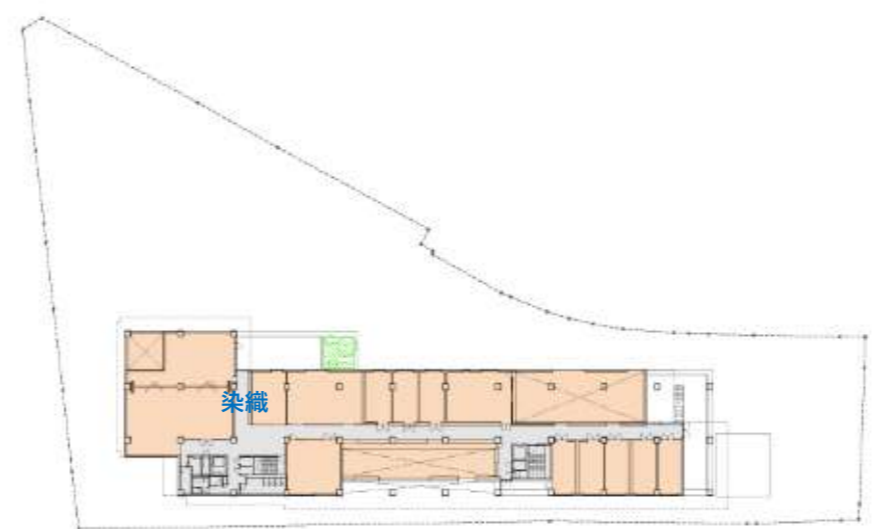


▲ 出入口

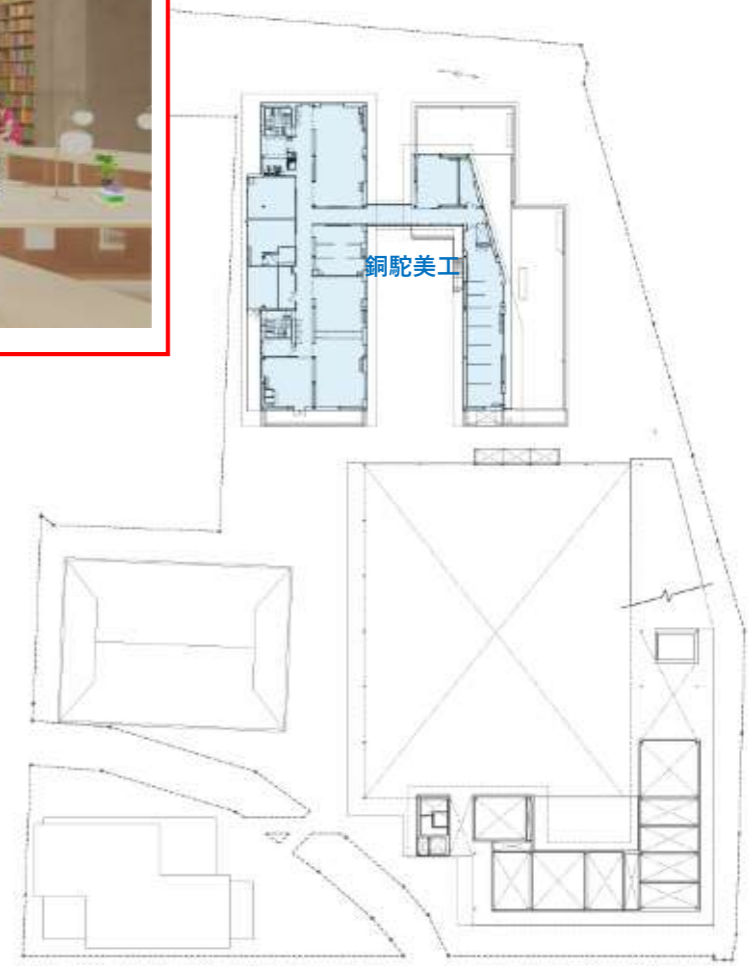
3階



C地区



B地区



A地区



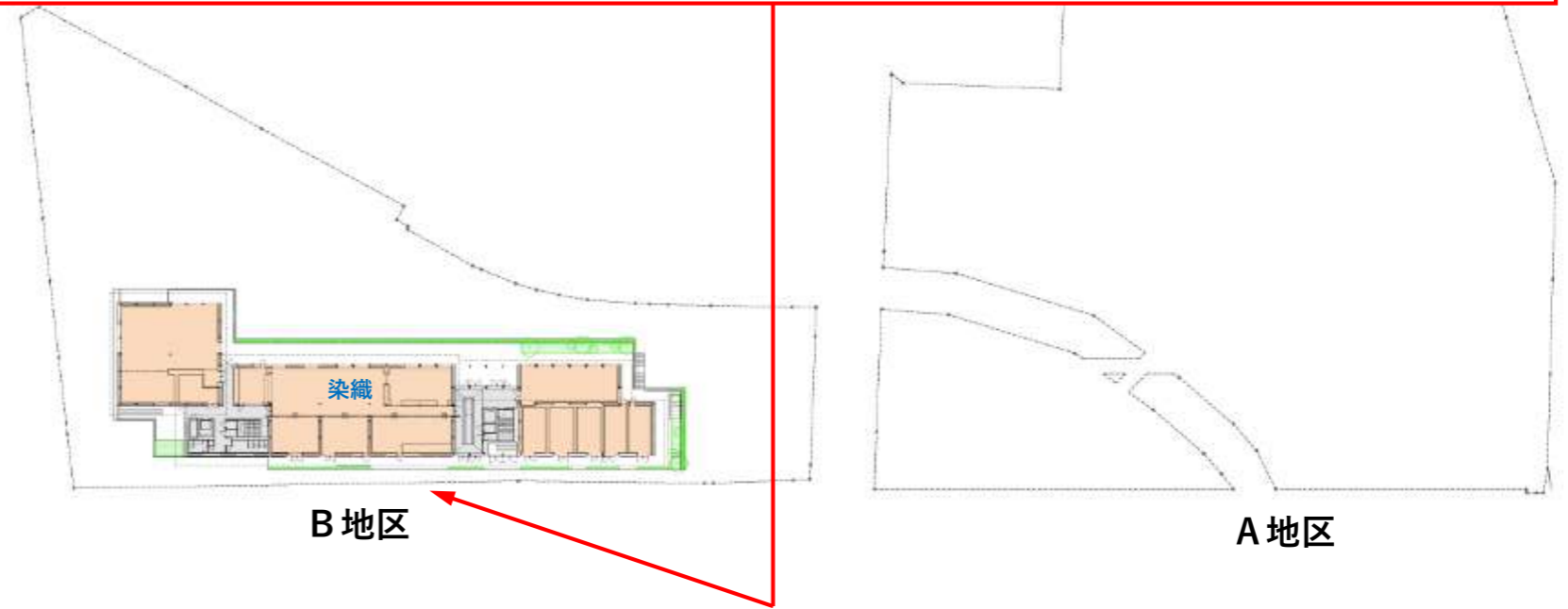
▲ 出入口

4階

新幹線からB地区



C地区



B地区

A地区

▲ 出入口

5階

- 美術学部
- 音楽学部
- 共通
- 銅駝美工

大合奏室



十字路



C地区

6階

C地区

7階

C地区

地下1階



▲ 出入口



## 4 立面計画

北立面



A 地区

B 地区

C 地区

東立面



A 地区

南立面

高倉通



C 地区

B 地区

河原町通

須原通

キャンパスをつなぐ上空通路を設置します。

A 地区

## 5 環境への配慮, 安心・安全への配慮

### ○建築計画による省エネルギー化

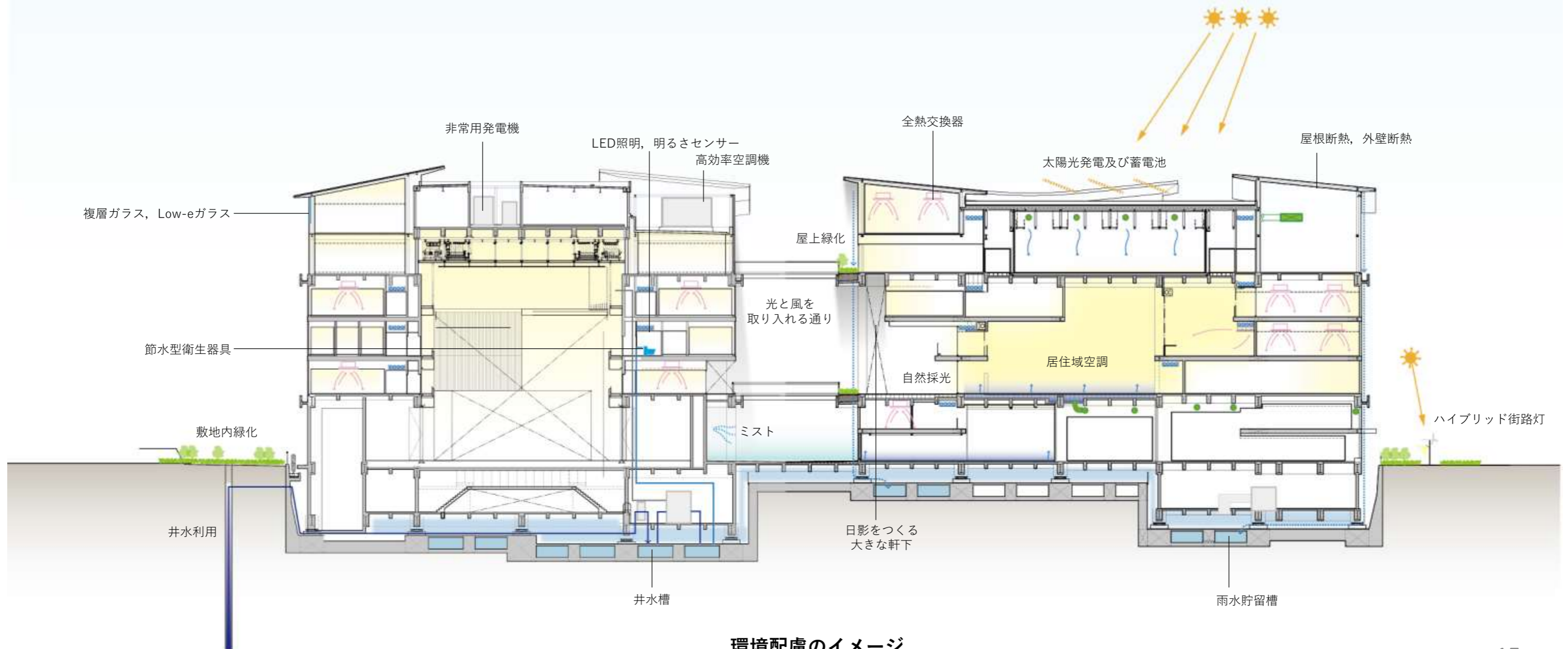
- ・大きな庇による日射の抑制, 屋根・外壁・建具の高断熱化により, エネルギー消費量の低減を図ります。
- ・吹き抜けや通りを設けることで, 建物内部まで光や風を取り入れ, できるだけ設備に頼らない, 快適な建築物を目指します。
- ・大きな屋根で集水した雨水を, 打水や散水などに活用します。

### ○エネルギーのベストミックスとマネジメント, 環境負荷低減の両立

- ・地中熱及び太陽光等の再生可能エネルギーを活用するとともに, 熱源の分散化により, 高効率で災害に強いシステムを実現します。
- ・電力・水道・熱の消費量の見える化を行うなど, エネルギー運用の総合的なシステムを構築します。
- ・「京都市公共建築物低炭素仕様」に基づき, 京都市の建築物として求められる環境性能を満たします。

### ○防災活動拠点としてのキャンパス

- ・学生・教職員が安心して安全に教育研究に取り組めるよう, 十分な構造安全性やバリアフリー, セキュリティを確保したキャンパスとします。
- ・京都駅に近い立地を考慮し, 災害時の帰宅困難者が一時滞在できるスペースをC地区に確保します。
- ・元崇仁小学校が担っている避難所としての機能を引き継ぎます。
- ・大雨による水害に備え, 電気室を2階以上の階に設置します。また, C地区に非常用発電機を設置し, 停電時にも必要な設備に電力を供給できるようにします。



環境配慮のイメージ